

山田学区

社協だより

第 69 号

発行
山田学区
社会福祉協議会

山田学区 医療福祉を考える会議

平成二六年三月の社協だより六三号でもお知らせいたしました「山田学区医療福祉を考える会議」は開始から四年が過ぎようとしています。

この会議は、山田学区社協と松原地域包括支援センターが中心に、当学区に係のある、医師、ケアマネージャー、介護サービスマネージャー、訪問介護等の専門職のみなさん、地域の代表者等が一堂に会し、地域の課題を話し合い、その解決に向けて、それぞれの取り組みや、解決の糸口を見つけ出していきましようとしています。

そして、高齢者等の個人に対する支援の充実と、そ

れを支える社会基盤の整備

とを同時に進め、「地域包括ケアシステム」の実現を目指していこうとしています。

一月二六日、第十回

目の会議を開きました。ところで、いまの世の中で高齢者などを支えています社会の仕組みは、現役の働いている世代が支えています。

これが昭和四十年代ころは、現役世代十人一人の高齢者を支えていました。今現在は二・三人が一人の高齢者を支える騎馬戦にもならない状態です。

今後はますます少子高齢化が進みますので平



成三七年ころは二人以下となつてしまつたと予想されています。

このような背景のもと、おおむね十年後の地域の姿を予想し、どう対応するかみんなで予想してみましよう。そして自分たちで出来ることは何かを考えましよう、ということグループ討議をいたしました。

健康長寿のためには 人との繋がり

米國ハーバード大学が一九三八から七五年かけて研究した幸せになる方法を発表しました。アメリカに住む七二四人の男性

研究結果分かったことは、富や名声、業績などではなくて、人間が幸せになる方法は、「良い人間関係を創る」事だということが

の追跡調査を調査して幸せになる方法を探りました。つまり、第二次世界大戦の頃に、十代だった人をずっと追いかけて行って、人生を見てきたんです。

一般的に、幸せになる方法は、お金、名声、業績だと答える人が多いと思いますが。たしかに、私たちがから見ると、お金を沢山持っている、だから尊敬されて、立派な仕事をした人たちは幸せそうに見えます。



敬老会で出番を待つみなさん



学区ふれあいまつり

分かったそうです。人間関係が幸福の近道だということですね。
 良い人間関係とは？ 人間関係と幸せとの関係は、三つに分けられると話され

満足度というのは、他の健康的な要因、たとえば中性脂肪とか、血圧が高いというより、人間関係の満足度の高低が後々の健康を決める要因になっているという

- 一、周りの人とのつながりは健康に良い
 - 二、人間関係の満足度が健康に影響する
 - 三、良い関係は脳も守ってくれる
- 逆に言えば、近所とも付き合わず、独りぼっちの人は、不幸せだと感じると言うことです。

二つ目の

ことです。人間関係の質を高める事で、健康になるんですね。
 三つ目は、何かあった時に頼れる人がいる人の方が、頭がしっかりしている。良い人間関係は、頭も守ってくれます。

東京大学の高齢社会総合研究機構の千葉県柏市での調査結果から、健康長寿のポイントは、「社会性」があつて、毎日よく働き、よく肉料理を食べる」こととっています。筋肉量の減少の原因のトップに「社会性」と位置付けています。「社会性」が衰えると活動量が低下し、負の連鎖が始まります。近所での集い、カラオケ、ランドゴルフ、散歩なども十分「社会性」の維持に役立ちます。

厚生労働省の研究結果から、社会参加と介護予防効果の関係について次のように言っています。
 ボランティアグループ等の地域組織への参加割合が

高い地域ほど、認知症リスクを有する後期高齢者の割合が少ない。

スポーツ組織への参加割合が高い地域ほど、過去1年間に転倒したことがある前期高齢者が少ない。



学区での健康ウォーキング「サースタートですよ」

趣味グループへの参加割合が高い地域ほど、うつ病になるリスクが少ない。
 以上からも分かりますように、健康で長生きするために、地域と繋がりを保ち、何かのボランティアを続けませんか。

人権研修

三重県人権センターでの研修は、平成二六年度に続き二回目となります。ところ

ろが、今年度の町内学習懇談会推進者研修講座におきましても、三重県人権センターの味岡さんの講演をお聞きしています。

☆ 今回は研修に参加されました皆さんの感想をお伝えいたします。

☆ 今日、天気もよくなつてすばらしい日になりました。常の行いが良かったなと思つています。

☆ 味岡前校長先生のお話しは大変上手に分かりやすく差別についてお話をされた良い勉強になりました。ちよつとした言動で差別をしているかと思つたら、こわいですね。



☆ 今思っていること、昔思つていたこと、その様な話をしていただき、反省することがたくさんありました。今後、先生の話を出して実行したく思います。

☆ 本日参加させていただき、改めて人権について、現実と同じ意見を含んでい

た。これからは話にあった様に、一人ひとりが考えて言語、行動に注意して進んでいけることを思つていきます。

☆ 部落解放、人権尊重の社会づくりに向けた講師の熱い思いを聞かせていただきました。

☆ 本日の研修に参加させていただき、大変改めて思

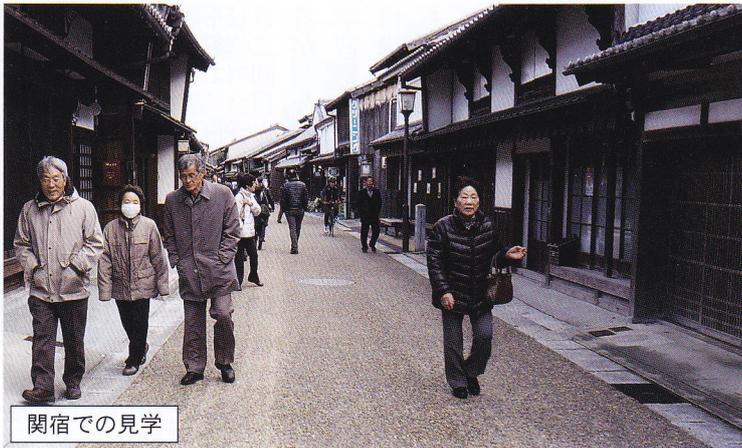
☆ 平成になつた今も部落差別があるというのは悲しいというか残念でなりません。



ん。差別される側も、もつと胸をはつてほしいし、する側も絶対にしてはいけない。皆と平等を根本にもたせよと思ひます。いまだに考えが続いていることは、強い意志をもつてなくしていかなければなりません。館長さんのお話しに感動しました。立派な人権セン

ターも同様です。
☆ 普段は人権問題ばかりでできている、自分は差別をしていないと胸を張っているが、切実、必然のときにどんな態度をとるか、自分を見つめなおす良い機会となつた。これから、個々、人が尊重される社会づくりに努力していきたい。

☆ 自己啓発の良い機会になりました。自分自身の問題としてとらまえること、そして行動することが、差別解消重要なポイントである。あらためて自分自身に問うことが出来た。
☆ こちらは二度目の来館でした。差別は許さないと強い思いが先生のお話しの中から感じられました。忌避意識をなくすためにまず自分を知ることの大切さを教えていただきまし



関宿での見学

た。人として対等の心を持つことの大切さも差別をなくす第一歩だと思いました。私たちが今回の研修を通じて子どもたちに伝えなければならぬことを気付かせていただきました。ありがとうございます。

☆ 味岡さんの巧みなトークで引き込まれました。親を選べない。生まれる場所を選べない。そういった境遇に自分が生まれたら、ど

の様な人生を歩んでいたか改めて思い知らされました。世間と立ち向って行けるかどうか、そんな強い人間でないだけに思い知らされました。

☆ 講師の味岡さんのお話しは、なるほど！ と思うところが多々ありました。「自分は差別しない」と思っている、自分や自分のまわりの利害と関わってくる、差別する心は生まれてくるものだと思います。

日々学ぶことと知ることを大切にしていきたいと改めて感しました。段取り等、ありがとうございます。

☆ 人権センターでの研修は二度目ですが、改めて、研修の必要性を再認識しました。差別の歴史と現実を正しく把握し、生活に反映することが、我々の世代の責務であると深く認識させられた。

☆ 館外研修は今回が初めてです。三重県の人権センターももちろん知りませんでした。味岡先生の講義をお聞きして大変感動をしました。人間、いざというときに何かを感じる必要があります。と思いました。

☆ 味岡先生のお話しが上手で大変勉強になりました。同和問題もお話しの中にあったように、忌避行動による差別をいかになくしていくかといった人たちへの関心をいかに持たしていくか？ まだまだ解決に向けて時が必要と思います。

賛助会員紹介

今年も草津市社会福祉協議会賛助会員への募集をさせていただきます。山田学区では、二九社(名)の皆様からご協力をいただきました。この会費は草津市社会福祉協議会の活動に有効に活用させていただきます。

ここに、山田学区の賛助

会員のみなさまをご紹介申し上げます(敬称略・順不同)

- ▼(株)アヤシロ
- ▼(株)ナカイテクノ
- ▼(有)横江製作所
- ▼相撲ちゃんこ 大岳
- ▼(株)光真製作所
- ▼(株)中嶋歯車工業所
- ▼藤田工務店(株)
- ▼福盛教材
- ▼浜口自転車店
- ▼オートカム
- ▼ワークパートナーきらら
- 北山田
- ▼中野製菓製造(株)
- ▼園田瓦店
- ▼(株)久泉エンジニアリング
- ▼(有)馬場自動車
- ▼(有)馬場工務店
- ▼堀井歯科医院
- ▼(株)テクノオーミ
- ▼膳所木材工業(株)
- ▼キャノンマシナリー(株)
- ▼山一産業(株)
- ▼(有)久保水道
- ▼西本電気工事(株)
- ▼(有)馬場建設
- ▼平井自動車工業(株)
- ▼佐山水道工業(株)
- ▼すずか亭

▼TENSEISHINBIKAI

岡田茂吉研究所
木川営農組合組合長
古川 孝夫

編集後記

今年の四月からは、山田「市民センター」が「まちづくりセンター」と呼び方が変わります。そして、この管理は指定管理者制度を導入して、民間に委ねることとなっています。

その指定管理者が学区のまちづくり協議会となります。でも、このことが学区の皆様から、「ああ、よかつたな」と感じていた抱かなくてはなりません。

学区社協も、いままでどおり、学区の皆様と、背伸びをしないで、地に足の着いた活動をつづけていきます。

この広報が皆さんの手元に届くころとなりますと、本当に春がそこまで来ていることを実感できるころです。